

森の中の隠れ家でランチをいただく！

白洲正子さんの武相荘

～自伝抄「鶴川日記」を旅する

町田市観光
ガイドの解説
案内付き！



晩秋の武相荘(イメージ)

鶴川日記は昭和53年、読売新聞の自伝抄に連載した白洲正子さんの随筆です。戦時中に、東京郊外の鶴川村(現在の町田市)にある現在の武相荘に移り住んだ時の経験を「鶴川の家」、「農村の生活」、「村の訪問客」、「鶴川の周辺」として4つの節で綴ったものです。

旅の行程は、新宿駅を出発して鶴川街道を通り武相荘を目指します。白洲正子さんそのものを語る『鶴川の家』である旧白洲邸・武相荘をゆっくりと見学してお昼になります。市立野津田公園の里山の森に囲まれた隠れ家レストラン俊宣茶房は都内とは信じられないようなロケーションで、里山の緑を借景にしたシックな室内インテリアと素晴らしい器で美味しい料理をお召し上がりいただけます。午後は白洲正子さんが大和の都と関係があると考えていた三輪の里山を、町田市観光ガイドの方の案内でゆっくりと散策します。また「石楠花寺」とも称される「花の御寺 高蔵寺」のお庭も散策します。そして旅の終りは、寺家ふるさと村の「四季の家」でコーヒーと和風ケーキをいただきホッとひと休み。東京なのに奈良や京都の風情を味わえる旅に出て『日本美』の真髓に触れてみませんか？

森の中の隠れ家レストラン 俊宣茶房

町田の里山を借景にした
俊宣茶房の店内



イメージ



イメージ



イメージ

鶴川日記の一節より

●町田市の周辺には、大和、奈良、^{おかがみ}岡上、^{みわ}三輪、^{おのじ}小野路、^{はらた}香具山、竹内、^{はらた}原当麻など、大和と関係のある地名が多い。私はいつも不思議に思っていたが、武蔵に国分寺が造られた時、大和から移ってきた人々が、故郷をなつかしんで名づけたものに違いない。

●街道から細い道を東へ入ると、もうそこはOさんの邸内で、右に熊野神社、左に高蔵寺が建っている。

旅行日 2019年11月28日(木)・29日(金)

旅行代金 15,000円

募集人員 24名様(最少催行人員18名様)

9:00新宿駅西口→貸切バス→首都高・中央道→稲城IC→10:00～11:15旧白洲邸・武相荘→野津田公園→里山と小高い丘を15分ほど歩きます→11:30～13:30俊宣茶房→野津田公園→高蔵寺→14:00～16:00ガイドさんの案内で散策→高蔵寺→寺家ふるさと村→16:00～16:30四季の家(コーヒーと和風ケーキセットで休憩)【※日没時刻:16:30頃】→田園都市線・青葉台駅脇→横浜青葉IC→東名・首都高→18:00頃 新宿駅着

●添乗員／同行してお世話します。
●食事／昼食1回(俊宣茶房にてイタリアン風松花堂弁当のランチコース)
●集合場所・時間／新宿駅西口・午前9時00分出発
●交通機関／小型貸切バス(予定運行会社:美杉観光同等)